令和５年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

Ⅰ　自己評価

岐阜県立高山工業高等学校　学校番号　５９

1　学校教育目標	確かな学力、健やかな身体、豊かな心を育み、社会の変化に対応可能な揺るぎない知識や技術で、地域の将来を担うエンジニアリーダーを育成する。		
2　スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（ＧＰ）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（ＡＰ）
	○自信と誇りを身に付け、自分で考えて行動し、向上心を持って技術で地域社会を支える生徒 ○他者を尊重し他者と協働して、良好な人間関係を築き、社会から信頼される生徒 ○地元を愛し、積極的に課題解決に取り組み、地域や社会に貢献できる生徒	○課題を発見し解決する力を育成するための「基礎的・主体的」な学びの推進 ○地域素材や地域資源を生かし、地域と連携した「体験的・実践的」な学びによるキャリア教育の充実 ○生徒一人ひとりの個性を伸ばし、ものづくりを通じた専門的な学習による「先進的・探究的」な学びを実現するカリキュラムの編成と、個に応じたきめ細やかな指導の実施	○ものづくりに興味があり、仲間と協力しながら共に知識を深め技術を高める意欲のある生徒 ○自ら将来を切り拓く目標を探り、その実現に向かって積極的にチャレンジする生徒 ○専門性を生かした地域と連携した活動、生徒会活動や部活動等に積極的に参加し、活気ある学校を築こうとする意欲のある生徒
3　現状の分析	○明るく素直な生徒が多く、挨拶、礼儀、身だしなみ等は概ね良好で、安定した学校生活を送っている。 ○積極的に資格取得やものづくりに取組み、習得した知識や技能を生かして進路目標を達成するとともに地域社会にも貢献している。 ▲義務教育段階の基礎学力及び学習習慣や学習方法が身に付いていない生徒が多い。 ▲特別な配慮が必要な生徒や人とのコミュニケーションが苦手な生徒が増加しており、生徒間トラブルもある。		
4　学校の抱える課題	・専門的な知識や技術で地域に貢献する人材を育成するため、義務教育段階の基礎学力の確実な定着を図る必要がある。 ・様々な活動においてＩＣＴを効果的に活用するとともに、個別最適化された学びに対応可能な体制づくりをする必要がある。 ・個に応じた共感的な指導及び外部連携を活用した支援を充実させ、よりよい人間関係を構築できる生徒の育成を図る必要がある。 ・「ものづくり」を通じた地域連携活動を精選し、地域と一体となった人材育成を図り、地元就職率を上げる必要がある。 ・地域、中学生、保護者に本校の「ものづくり」教育の魅力を伝え入学生の増加に繋げる。		
5　今年度の具体的な重点目標	◇生徒一人一人の「基礎・基本な学力の定着」を図り、「主体的な学習態度」、「倫理観や規範意識の醸成」、「自ら判断し行動できる能力」の育成とともに、「個別最適化された学び」や「個に応じた進路選択」、「職員の働き方改革」の体制を整え、さらに地域や各種関係団体体等と緊密に連携し「地域社会に貢献できる人材」の育成に努め、開かれた学校づくりを目指す。		

年度目標			年度末評価			
6　評価項目 領域・分野	7　重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	8　達成度の判断・判定基準あるいは評価指標	9　取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A･B･C･D	11　成果と課題	12 総合評価
学習活動	①学習意欲を喚起する授業改善に努め、主体的な学習態度の育成及び基礎的・基本的な技術・技能の定着を図る学びの推進	①・授業アンケート ・定期考査の結果 ・課題等の取組状況 ・生徒実態調査	①・公開授業週間での実施と教員間の授業研究の実施 ・ICT環境や協働的な学びを用いた授業改善に取り組む教員の増加 ・教科科目ごとの観点別評価の実践 ・少人数・習熟度授業等の実施	B	○本校で主体的で対話的な深い学びを行っているとするｱﾝｹｰﾄ結果が多数 ○基礎力診断テスト分析で見られる入学後からの学力向上 ○ﾚﾎﾟｰﾄや課題のﾃﾞｼﾞﾀﾙ提出等、ICTの活用が増加 ○生徒の活躍する場面の増加 ▲教員間の授業研究の活性化 ▲観点別評価について生徒への還元や評価方法の改善の継続 ▲課題と外部教材を用いた一貫した学びと個別最適化学習 ▲来年度の「ﾃﾞｻﾞｲﾝ実践」の実施	A (B) C D
	②地域連携事業を活用したコミュニケーション能力と問題解決能力の育成	②・地域連携事業の評価と分析 ・各事業実施状況 ・生徒へのアンケート結果 ・参加者へのアンケート結果	②・生徒が商品開発、生産、販売を行うｻﾃﾗｲﾄｷｬﾝﾊﾟｽや小学生対象のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ出前授業等の協働的で探究的な活動の実施 ・SDGsを意識したﾃｰﾏを設定したものづくりを行う課題研究の実施 ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ思考ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟの実施による「ﾃﾞｻﾞｲﾝ実践(来年度からの新科目)」の準備	A		

生徒指導	①倫理観や規範意識を醸成し、自立心を持ち自律する生徒を育成する	①・身だしなみチェックの状況 ・アンケートの結果 ・生徒の出欠状況	①・MSﾘｰﾀﾞｰｽﾞによる挨拶運動の実施 ・身だしなみﾁｪｯｸ「高工ﾌｫｰﾏﾙﾃﾞｰ」の実施 ・外部講師による講習会の実施 ・生徒会主体による生徒心得の改定	A	○生徒自らｾﾙﾌﾁｪｯｸを行う身だしなみﾁｪｯｸを実施 ○挨拶する生徒の増加 ○生徒会主体で「生徒心得」の改定を実施 ○問題の初期発見と教員間の情報共有と組織的な対応の実施 ▲ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝが苦手生徒の増加 ▲授業規律の徹底	
	②個に応じたきめ細かな指導を行い、自他共に尊重した望ましい人間関係を作る力を育成する	②・担任等との面談状況 ・ケース会議等の実施状況 ・外部専門家の派遣要請状況	②・いじめ防止等対策検討委員会等の適切な実施による生徒情報の組織的共有の実施 ・ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰやｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ等との連携 ・個別の支援計画、生徒面談週間の活用 ・登校指導や保健室からのSOSの早期発見 ・生徒理解に関する教員研修の実施	B		
進路指導	①専門的な技能や発想を育成することで体験的・実践的なキャリア教育を推進する	①・資格の取得状況 ・ものづくりコンテスト等の成績 ・進路補充状況	①・高度の資格取得のための補習等の実施 ・外部人材を活用した技能教育 ・ものづくりコンテスト向けた技術指導 ・外部講師による学校設定科目「匠」の指導	B	○生徒が多数の資格を取得 ○求人人数が過去最高 ○地元企業就職者の増加 ○1･2年生対象に地元の企業見学実施(高山市と飛騨市と連携) ▲公務員や進学希望者に対する受験対策や指導の充実 ▲多様化する進路希望への対応や効果的な支援方法	
	②キャリアプランニング能力を向上させ、進路実現に結び付ける	②・企業見学実施状況 ・卒業生と語る会の実施状況 ・卒業生の追跡調査 ・企業での評価状況	②・高工キャリア・パスポートの活用 ・外部の教育力を活用した進路行事の実施 ・インターンシップの実施 ・進路目標に対する個別支援（ﾊｲﾚﾍﾞﾙ講座やｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ講座、模擬面接等）	A		
学校経営	①社会貢献活動の充実 （工業技術を生かした地域への貢献）	①・活動の実績 ・報道機関による掲載件数	①・ものづくり体験(花里小との交流事業) ・ものﾗﾎﾞin高山へｽﾀｯﾌとして参加 ・飛騨高山SDGsﾊﾟｰﾄﾅｰ登録。他団体と連携 ・総文祭ｶｳﾝﾄﾀﾞｳﾝﾎﾞｰﾄﾞの作成等　　多数	A	○中学生対象の「T-Magazine」の発行し飛騨地区中心に各中学校へ配付 ○ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽの参加者が大幅に増加 ○県発表の進路希望状況で本校への志望者が増加 ○ｺﾛﾅが明け、地域ｲﾍﾞﾝﾄ等への参加要請が活発化 ▲地域からの依頼の増加による学習活動時間の圧迫 ▲地区の中学卒業者数の減少 ▲働き方改革の継続	
	②広報活動の充実	②・本校への志望状況 ・教育週間等における来校者数 ・自治体への情報提供回数 ・ＨＰの更新状況 ・活動実績	②・ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽの２日間の実施 ・学校新聞を発行と中学校への配付 ・ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの更新の活性化 ・公共団体とのものづくり協力、学校紹介ﾘｰﾌﾚｯﾄ、卒業作品展の案内配付等実施	A		
	③職員の働き方改革の推進	③・出退勤の記録と時間外業務の削減状況	③・生徒欠席連絡のネット連絡による朝の管理当番業務の削減 ・長期休業時の管理当番の廃止	B		

○成果　▲課題

Ⅱ　学校関係者評価　　実施年月日：令和６年１月２７日

・３年間の集大成である卒業作品展の様子より、ものづくりを通して、主体的で対話的な深い学びが行われていることが分かった。
・長期課題や課題テストの一貫性や多様化する進路目標に対応するために来年度導入する学習アプリの活用に賛同する。個別最適化された学び等、効果的な活用を期待する。
・生徒自身が身なりについてセルフチェックをする取組や、生徒会提案の校則の取組など、自律心が育成されていることが分かる。
・生徒は、自ら挨拶することができている。他の生徒の様子を見ても、明らかに良い方向に変化していることが分かる。
・年度当初に個別の教育支援計画を中学校から引き継いでのクラス運営や、いじめに対して組織的に対応したりすること等、今後も生徒に寄り添った対応を継続することを期待する。
・コミュニケーションが苦手な生徒への対応として、来年度から県の「高等学校における演劇等ワークショップ事業の指定校になったことはよい。効果的な活用を期待する。
・県内や飛騨地区への就職者が昨年度より増加したことは地元企業にとって良い傾向である。現在、飛騨の企業では、人手不足のため実施したいことができない状態である。今後も地元への就職数が増加することを期待する。
・きめ細やかな生徒に対する取組や地域への連携等の取組が、本校への進学希望者や地元就職者を増加させる成果につながっている。来年度も継続することを期待する。

13　来年度に向けての改善方策案

・自己表現を通して、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感・自己有用感を育むため、県の「高等学校における演劇等ワークショップ事業」を実施する。
・長期休業課題や課題テストと外部テストとの学習効果について検討するとともに、補助教材の精選やＩＣＴの有効活用も考慮した結果、来年度より学習アプリの活用を実施する。これにより、個別最適化された学びの実現や、多様化する進路に対する個別の支援、教員の働き方改革につなげる。
・地域からの依頼の増加は、本校が認知されている表れであるので有難い。しかし一方で、生徒の学習活動の時間を圧迫しているため、教育効果を考慮し精選していきたい。
・授業規律について、学校全体の課題であると全職員が認識し、組織として対応する。
・主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践を行うために、ICTの効果的な活用（宿題を含む）やグループ活動による学習活動を充実し、生徒の学習に対する意識改革を促す。
・スクール相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等がもつ専門的な知識を有効活用し生徒への支援を今まで以上に充実させる。
・就職率の増加に伴い生徒一人一人の進路実現を明確にし、早期離職につながらないような進路支援の方策等を検討する。
・研修支援部を中心に、教員研修に対する意識を変え、自発的に資質向上をめざす研修を企画する。
・生徒に関わる時間や授業準備時間を確保するため、日常業務のスリム化やデジタル化をすすめ、教員の働き方改革をさらに推進させる。